

# 可児の宝 美濃金山城跡



こちらは旧兼山町(現在の兼山地区)の平成5年の広報紙です。テレビドラマ「森蘭丸」戦国を駆け抜けた若獅子」が制作され、兼山地区でのロケの様子を紹介しています。森蘭丸(乱丸)は18歳という若さで生涯を終えましたが、美濃金山城主も務めました。

美濃金山城の発掘調査は平成18年から行われ、平成25年には国史跡に指定されました。他にも市内には9つの山城があり、11月には全国山城サミット可児大会が行われることになっています。

ここではサミットの開催を前に、注目を集める兼山地区の美濃金山城跡に迫ります。



(右)ロケ風景が写る当時のチラシ

### 美濃金山城の歴史

齋藤大納言(妙春)が1537年に築城し、当時は「烏峰城」と呼ばれていました。1565年に森可成(織田信長家臣)が城主となり、金山城と名を改めます。その後、森長可、森蘭丸、森忠政が城主となり、豊臣政権下の東美濃支配における拠点として機能しました。

1600年には忠政が川中島に所領を移し、破城され、城としての歴史を終えることになりました。その際、金山城の諸施設が犬山に移されたという「金山越」の伝承が兼山と犬山の両方に残されています。



美濃金山城の復元イラスト(香川元太郎作)

### 国史跡 美濃金山城跡

城の種類は築かれた場所の立地により「平城」、「平山城」、「山城」などに分けられます。美濃金山城は山城に位置付けられ、山の上に築かれています。戦国時代以前、武士たちは山のふもとに住み、戦の時に山の上の城に登っていました。その後、戦国時代になると山の上に住めるような建物が築かれました。美濃金山城跡でも建物の土台に使用した川原石の礎石がそれぞれの曲輪(平坦な場所)に見られるほか、生活に使用した陶器などが出土し、山城の中に人が住んでいた様子がうかがえます。

美濃金山城跡は、築かれた山全体が城跡の範囲で、そのうちの約30ヘクタールが国史跡となりました。国史跡とは国の歴史を語るうえで欠かすことのできない遺跡のことです。岐阜県内ではほかに、岐阜城跡・加納城跡(岐阜市)や苗木城跡(中津川市)といった城跡が指定されています。

## 第26回全国山城サミット可児大会 開催記念特別展

### 森氏の東美濃攻略

～本能寺の変から小牧・長久手の戦い～

日本の歴史が大きく動いた本能寺の変から、秀吉と家康が戦った小牧・長久手の戦いまで、金山城主・森長可の活躍をさまざまな史料で読み解きます。本能寺の瓦も可児市初公開!

- 期間/9月21日(土)～11月24日(日)  
※月曜日・祝日の翌日は休館、祝日は開館。
- 場所/可児郷土歴史館
- 入館料/200円(10月1日からは210円)



本能寺跡出土土瓦(京都市所蔵)

### 出土遺物にも触れる学芸員ギャラリートーク 申込不要

- 日時/10月19日(土)午後1時30分から1時間程度  
11月16日(土)午後1時30分から1時間程度
- 場所/可児郷土歴史館 ※参加は無料ですが、入館料は必要。

### 発掘体験! 美濃金山城跡

- 日時/9月29日(日)午前10時～正午
- 対象/親子8組程度(小学生以上)
- 応募方法/氏名(親子)、子どもの学年、住所、電話番号を電話または電子メール(bunkazai@city.kani.lg.jp)で文化財課に申し込む
- 申込締切/9月20日(金)



発掘体験の様子

### 明智光秀のルーツ「明智荘」めぐり

～土岐明智氏発祥の地・明智荘周辺を探索せよ～  
スマートフォンの人気スタンプラリーアプリ『ニッポン城めぐり』とのコラボ企画!  
●期間/9月12日(木)～12月11日(水)  
※詳しくはアプリ内でお知らせします。

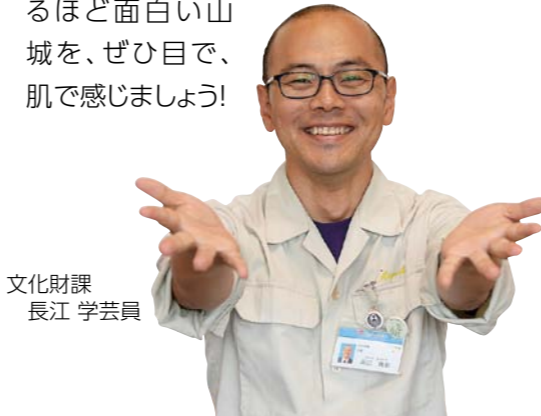


## 発掘現場現地説明会

※小雨決行。

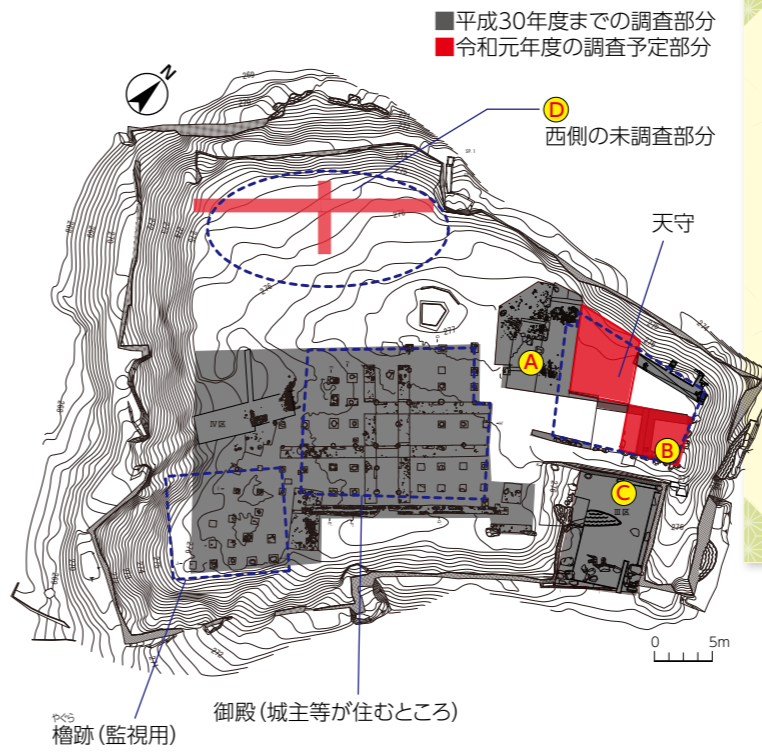
- 期日 ①9月23日(祝)  
②11月10日(日)
- 時間 ①午前10時30分～正午  
②午前9時～午後4時(随時)
- 場所 美濃金山城跡  
※駐車場に限りがあるため乗り合わせなどご協力をお願いします。

発掘調査の過程と成果を見ることが出来ます。全国山城サミット可児大会(11月9～10日)での公開後に埋め戻しを行いますので、掘った状態が見えるこの機会に、森氏が築いた城の痕跡をご覧ください。知れば知るほど、考えれば考えるほど面白い山城を、ぜひ目で、肌で感じましょう!



文化財課 長江 学芸員

### 美濃金山城跡(本丸)の調査位置図



虎口を調査する様子(H30)

内側の石垣(H29)

瓦や皿などの出土状況(H29)

これまでの発掘で分かったこと  
平成18～22年度は国史跡の指定を目指すため、各曲輪(平坦な場所)にあるものや特徴を調査し、遺跡の範囲を特定しました。  
平成29年度からは城跡を計画的に整備・活用するため、未調査部分を対象に城の特徴を明らかにする調査を行いました。山頂の本丸(主郭)部分の発掘では、天守の位置や規模を特定し、新たに瓦や皿が集中して出土された場所と、川原石が敷かれた場所(A)内側の石垣(B)などを発見しました。また、本丸へ上がる虎口(出入口)(C)が一つであることが明らかになるなど、新たな面も見えてきました。  
一方で、天守の構造について新たな謎も出てきました。

今年度の発掘調査  
9～10月で行う今回の発掘は、天守の構造を解明するため、礎石を使用したのか、素掘りの穴に柱を立てたのかを調査し、虎口の穴に柱を立てたのかを調査し、虎口との関連などが明らかになる予定です。また、西側の未調査部分(D)も発掘し、庭園の痕跡なども調べます。